

Zun
寸 dō
胴

附属図書館ホームページ URL : <http://www.gifu-u.ac.jp/~gulib/>

寸胴は、焼物を形成する際の途中の形で、円筒形の状態のもの。陶器が作られる際に親型となる焼物の原点であると言われている。附属図書館ロビーに、この寸胴が陶器へと成長するさまをモチーフにした「寸胴譜」と名付けられた大きな陶壁画があり、誌名の「寸胴」もこれに因る。

目 次

館蔵資料紹介

生き残ったギリシャ古典 小澤 克彦 1
展示会報告 3

電子ジャーナルの導入について 4
図書館の複写サービスと著作権について 6

館蔵資料紹介 25

生き残ったギリシャ古典...「写本」の運命...

小 澤 克 彦



私達の文化の故郷は、紀元前五世紀前後に興隆していた古代ギリシャにあることは良く知られています。

その遺産は詩・文学から悲劇・喜劇、哲学・歴史・政治、生物・物理・天文・医学等今日のほとんどすべての文化・学問領域に及びますが、その原典の重要なものが今に伝わり、図書館の主要な棚を作っています。しかし、その原典を手に取りときれいな活字で印刷されて「全集」「著作集」などとして並べられていますので私達はいよいよこれは紀元前の大昔からこんな具合に残されてきたのだと錯覚してしまい勝ちです。

しかし、活版印刷などできたのは近代になってのことです。それなのに紀元前の著作が二千何百年も経て何でこんな具合にたくさん残されてきたのでしょうか。そして少し歴史に詳しく見れば、ローマ帝国の時代にキリスト教が「国教」にされるとギリシャ文化は「異教の文化」として排撃され、プラトンの学園も閉鎖され一切のギリシャ的な学問が廃棄されたばかりかローマ人さえ熱狂させていたオリンピックまでも廃止されたのではなかったのか、なのはどうしてこんなにたくさんの古代ギリシャの文献が、といがる筈です。

ことはそんなに簡単ではありませんでした。たとえばその文献(写本)とその思想の運命を「アリストテレス」を例にしてちょっと辿ってみましょう。

古代ギリシャの時代「印刷術」なんてまだ存在していないのですから本は「手で写される」しかありません。本屋さんはずでにありました。彼らはたとえば奴隷を使って「写本」をたくさん作って売り物にしていたのです。ギリシャ時代は奴隷といえども読み書きができましたけれど、その能力に優劣があるのは当然でここにすでに「不正確」な写本の存在があり得ました。しかも「売れる本」はたくさん写本が作られますけれどそうではないものは少ししかつくられません。これは現代でも同じです。さてこんな具合に各地で時代ごとに写本が作られていくわけですが、量は知れていますし、またこんな具合ではたとえば「アリストテレスの著作」として統制もとれず不正確なままのアリストテレスが流布してしまいます。そこで紀元前一世紀頃にその著作が学者によって「編纂」などされています。しかしもうすでにここで初期の作品は散逸していました。ですから現代の私達もアリストテレスの初期作品はごく一部しか持っていない

ん。

他方、ローマ皇帝がキリスト教を受け入れてもしばらくはアテネの学問のメッカであったプラトンのアカデメイアは存続していましたが、ついに529年に閉鎖ということになりそこにいた多くの学者達は追放されてしまいました。アリストテレスの注釈で知られたシンプリキオスも小アジアに逃れます。こうしてギリシャの学問は西洋から消えてしまうのでした。

しかし、ローマ帝国の西側がゲルマン人に占拠されて滅亡した後も存続した後期の東のローマ帝国、いわゆる「ビザンティン帝国」は「ギリシャ回帰」をしていて民族的にもギリシャ人が中心で言語も教育もギリシャ語・ギリシャ文献となっていました。ですから幸いにもここにギリシャ文献は残されることになったのです。そしてビザンティン帝国ではギリシャ文献の研究も当然なされていて、アリストテレスも新たに研究されていました。

やがてその影響はビザンティン帝国領内である中東に向き、アリストテレスはシリア語に翻訳されていきます。もちろん公用語はギリシャ語でしたが地方ごとに現地の言語はあるわけで、現地での翻訳がされていたのです。ところが、八世紀にはいったころそのシリアは南から侵略してきたアラブ・イスラムに占拠され、こうしてアリストテレスは今度はアラビア語に翻訳されていきました。そしてそのアラビアに歴史的に著名なアリストテレス研究家が何人か生まれてきます。そしてそのアラブは西欧にまで入っていたので、やがて西欧へとその影響を伸ばしていきます。しかし単純には伝わりません。言葉の問題があるからですが、これもヘブライ語を経てラテン語に翻訳されることで西欧に入っていきます。ですから、中世のアリストテレス研究で有名なイヴン・ルシュドの西欧への影響について語られる時「ギリシャ原典のシリア語訳の、そのアラビア訳の注釈のヘブライ訳のラテン訳」などと紹介される始末です。実際、イヴン・ルシュドはギリシャ語は読めずまたシリア語もできませんでした。彼はそのアラビア語訳だけで研究していたのです。ところがこのアラビア語は西欧の人達は読めないものですから、西欧への伝播のためにはどうしてもとにかくラテン語にもってこなければならなかったのです。こんな具合にしてまでもってこられるには、中世の西欧にはとりたてた知的文化が全くなかったからであり、学者達は未知の知的成果に飢えていたからです。

以上のような具合に古代ギリシャの思想・文献は西欧に入っていくのでした。一方、イスラムはここまで来た

ところでイヴン・ルシュド達の学問はイスラムの教えに有害であるとしてこれを禁止し彼を追放してしまいました。相当にギリシャ化していたアラブだったのでここでギリシャ文化の遺産の発展はアラブから消えました。

今アリストテレスで紹介しましたがこれは実はアリストテレスにとどまらず、とりわけ医学やさまざまな自然科学においても同じ経路があったのです。西欧の近代化つまりギリシャ化にはこんな「アラブの経由」という大きな道があったのでした。

他方、そうこうするうち実質ギリシャ帝国であったビザンティン帝国はオスマン・トルコによって滅亡の危機に瀕し、そこで西欧に援助の使節を送ってきますがその中に学者がおりかれらは直接古代ギリシャ文化を西欧にもたらしたのでした。すでにアラブ経由でギリシャ古典のすばらしい価値に気付いていた西欧の人々は「本物を学べる」この絶好の機会を逃すまいとギリシャ語・文化の教授を要請し、若い学生達は熱心にこれを学び、様々のギリシャ古典のラテン訳が試みられていきます。首都のコンスタンティノポリスに留学するものもたくさん出てきます。こうしてギリシャ語の文法書もつくられ、辞書もできてギリシャ古典への道は大きく開かれていきます。こうした経緯の中でやがてビザンティン帝国が滅亡した時、多くの学者が西欧、特にイタリアに逃れてきて「アカデミア・プラトニカ(プラトン学院)」が設立されていくのです。つまりプラトンのアカデメイアの復興です。

ということならここに「写本」が大量に残されても良さそうだったのですがそうはなりません。写本そのものの数がたかがしれています。またそれは商売人によって一部の人たちの手に売り払われ、あるいは戦禍などで散逸していったからです。今日に残されたギリシャ文献の「写本」というのはそうしたものの一部か、あるいはビザンティン帝国の末裔である現代ギリシャの各地の教会にひっそりと残されていたものです。しかし多くは不完全で、数箇所のにこされた写本を付け合わせたりしてやっと「原形」が復元されたり数がそろったり、といった状況なのです。つまりどの本も数カ所に部分的に残されていた写本を付け合わせて全体をそろえ、そして正確な文章や語句を読みとり、やっと書物としての形や全集の形に復元できたものなのです。

他方「写本」というのは当然「読む価値があると判断されたもの」しか作られないわけで文献は歴史的に淘汰

されていきます。悲劇のアイスキュロスやソポクレスのものが「七編」しか残されていないのは「代表作」として編纂された「選集」としてのみ残されてきたからです。エウリピデスがもっとたくさんなのはその他に全集の一部が残されたからでこれは歴史を貫く彼の人気を反映しているでしょう。こんな具合にして現在「ギリシャ古典双書」といったものが編纂されているのですが、いずれも二千数百年の歴史の荒波をくぐり抜けてきた逸品ばかりであり、近代以降現在の文化の源として重要なものとなったのです。



(なお、写真は「アリストテレスの故郷，ギリシャ・スタゲイラの遺跡にて」です)

【関係所蔵図書】

1. 西洋古典叢書(刊行中) 京都大学学術出版会
イソクラテス弁論集 本館3階 131 | | Sei
ギリシア史 本館3階 131 | | Sei
2. ギリシア悲劇全集 全4巻 人文書院
本館3階 991 | | Gir
3. ギリシア喜劇全集 全2巻 人文書院
本館集密3 992 | | Gir
4. アリストテレス全集 全17巻 岩波書店
本館集密4 131 4 | | Ari
5. プラトン全集 全11巻 角川書店
本館集密3 131 3 | | Pla

(おざわ かつひこ : 教育学部教授)